



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 TEL:0593-31-1670
 FAX:0593-32-0733

掲示板法話

捨てるものはあっても 拾うものはあっても



残暑厳しい中にも九月になるとさすがに朝夕、秋の気配を感じます。九月は敬老の日(十七日)があり、我が老いを考える季節です。春が青年のエネルギーを感じる季節、夏が働き盛りの壮年を感じる季節とすると、秋こそ実りの秋、思索の季節。老いの生き方をよき先輩に学んでいく季節ですね。

よき先輩といっても有名人や高位高官の地位に就いた人とは限りません。地位も名誉もない無名の人たちの中にきらりと光る尊い生き方をし、子や孫だけでなく周囲に感化を及ぼした人がいたのです。

先日、「佐賀のがばいばあちゃん」という演劇を名古屋の中日劇場で観て感動を覚えました。「がばい」という言葉は佐賀県地方の方言で「すごい(素晴らしい)」という意味だそうです。原作は漫才コンビB&Bの島田洋七(本名:徳永昭広)さん。父親が広島原爆で亡くなった後、中学を卒業するまでの八年間、佐賀県の母親の実家で貧しい中にもたくましく育てられた経験が「佐賀のがばいばあちゃん」という本につづられ、好評を博し、ドラマ化されたのです。

捨てるものはない

今回の標語「捨てるものはあっても捨てるものはない」は家の前を流れる川を「スパーマーケット」と言って、流れてくる物を拾い上げて食材や道具にするほどの貧しい生活の中でおばあさんが日常つぶやいた言葉です。最近流行の「もったいない」と似た言葉ですが、単なる節約や環境配慮ではありません。勉強が出来ず、通知表の成績に1や2が並んでいても「足せば5になる。人生は総合力や」と言い切つて、短所を問題にせず、長所を引き出そうと努めました。「貧乏には暗い貧乏と明るい貧乏がある。うちは明るい貧乏だ。しかも、先祖代々の由緒正しい貧乏だから自信を持って!」と笑い飛ばして、卑屈にさせない信念の持ち主でした。

この演劇の舞台の中央には小さな仏壇があり、仏教的な知恵がおばあさんの光る言葉の源泉だと思われまます。戦後の貧しかった時代、そのような貧しい家にも泥棒がやってきたのですが、孫の昭広少年のために作っておいたおにぎりを泥棒に与え、「働кинしやい、働けば何とかなる」と諭したおばあさん。母親と離れて暮らす貧しい少年に、おしい

☆行事ご案内☆

9月23(日)午前10時・午後1時

物故者・戦没者「追悼法要」

主催・小杉町仏教会、長寿会、三全仏教婦人会

講師: 波多正宣師(兵庫)

9月例会・9月16日(日)午後7時半

- ① 「がばいばあちゃんの勇気がわく言葉」紹介。
- ② 『歎異抄』の「光る言葉」を紹介・座談。

三重組コーラス:9/29(土)午後7時半練習

※9/7(金)陽光苑誕生会7回目訪問(10時小杉発)都合できる方はできるだけご参加を。ぶつつけ本番です。童謡・懐メロ。
 ※2007御堂演奏会参加申し込み葉書受付開始(費用バス・昼食代他6千円) 9/20葉書×切り

キッズサンガ・杉の子合唱団 9/8(土)午後4時月に一回子供の向けのお経教室。ゲーム、紙芝居など。誰でも参加OK。無料

一縁会テレホン法話:059-354-1454お電話を。3分間でいつでも法話、5人の講師が週替わりで。24時間OK

◇お悔やみ申し上げます★
 ★服部よしを様(八月十六日亡・八十八歳)小杉町合掌



い運動会の弁当を送り続けた先生のさりげない優しさも忘れ難いものです。貧しく辛い暮らしを豊かな人間教育の場に転じた田舎のおばあさんの素晴らしい象徴するのが「捨てるものはあっても捨てるものはない」という言葉です。「捨てる」は「手偏と合」という字なので、「手を合やす」ことです。手を合やす生き方には「どんな苦しみも捨てるものはない」と捨ててゆける仏様の智慧が身につけてくるのです。



蓮の花も咲きました



モネの睡蓮の絵のよう



散れば咲き、散れば咲きして 百日紅さるすべり
 (加賀の千代女)垂坂山の百日紅も満開。百日紅は百日間咲き続けるので、この漢字を書きます。咲けば散りではなく、順序が逆なところに、「不屈の精神」を感じました。

坊守スケッチ

お墓参り

今年のお盆にはお墓参りをされましたか?『千の風になって』の歌が大流行してから、ちよっと様相が変わってきたかもしれません。ある新聞に「墓参り 行かぬ理由に 千の風」という川柳が載っていました。これを見て皆さんはどう思われますか?自分の怠惰さの言い訳にこの歌を使うとは、少々身勝手ではないでしょうか?歌の訳詩家で作曲家の新井満氏は「お墓参りしない理由にこの歌を使われるのは私の本意ではない。この歌は、いのちというものが、死んでから風や光や鳥や星になったりして、再生していくことを歌っています。死んだら単に土に還るといふことだけではなく、もっと大きな広がりをもつ大自然に還るといふ風に聴いて欲しい。お墓は亡くなった人のとりあえず現住所と考えてはどうだろうか?あなたと一緒にどこへでも行くが、ゆっくり心の対話をしたいと思えば、そこを訪ねればよい」と語っています。

嫁いで間もない娘を亡くされた親御さんが、お盆やお彼岸等、毎年四回欠かさずお墓に参られます。八十歳を越えられましたが、車で二時間以上、三十年以上も続いています。お墓の帰りに、善正寺の本堂にも寄られます。

「他人ならば年と共に忘れ去られてしまふが、わが子に死なれた辛さ・悲しさはいつまでも消えない。せめて親だけはいつまでも覚えておいてあげたい。それが私達の親心だから決して忘れたくない」とおっしゃいました。私もこの方と本堂で三十年以上親しくお話する中で、せつないほどに有り難い本物の親心に触れて、育てられた気がします。

最近、母親を亡くした友人が「行年」と「享年」の違いについて電話で尋ねてきました。「位牌には行年八十二歳と書いてあるが、墓石屋さんには享年八十一歳と彫ってしまった。どちらが正しいの?」という質問でした。

「享年とは死んだ人がこの世に生きていた年数をいうから、戸籍上の年齢と一致する。行年とは真宗的な意味合いが濃い。母親のお腹に宿った時から仏さまとなってお浄土に生まれ替わるまでの年という意味が込められていると思う。『俱会一処』という言葉があるけれど、ずっと前に亡くなった大切な人とも、また必ずお浄土で出会える、そう思えば必ずしも死は恐くないし寂しくない。死んだらしまいでなく、いつもあなたのそばであなただけを見守って下さるのよ」と答えました。



『千の風になって』の大流行のおかげで、小中学生が大きな声で、あちこちでこの歌を歌っているそうです。お墓や死が暗いイメージではなく、身近に感じられて、いのちは自分一人のためにあるのではなく、ずっと繋がっているかけがいのないいのち、そのいのちのバトンタッチをすることの大切さを彼等にも伝えたいと思います。

☆寄稿

四日市市 川崎 孝一

☆朝刻む オクラのごくち 五角形
ふと「五稜郭」五月の旅の

☆長梅雨の 明けて南瓜の葉纏れるも
夏日に対う 黄なるゆうかは

☆稲穂垂れ初む道抜けて六たび訪う
陽光苑に パースデー祝う

☆赤熱の 酸漿墓碑を 押し並べて
火の灯る如 今日終戦日

四日市市 萩 弘 運

☆夏草は 嫌われ セミは ほめられる
セミも草も同じいのちなのに、自分の都合でなぜ好き嫌いがあるのかしら?

☆ホットニュース

◇永代経の久堀勝敏先生の御法話を聞いた読者からのお便り「大切な人を相次いで亡くし落ち込んでいた今、愚痴・怒り・嫉みの真つ只中にある私と気が付かせてもらいました」お説教を我が事と受け止める本物の聴聞の姿勢ですね。

◇8/30朝ラジオ体操終了後、小杉子供会とお母さん達70名程がお寺参拝。ゲームやお話で楽しいひととき。

☆カンパ有難う☆

澤田美智江様・村田すみ子様・赤井淑子様・梅田美保子様・豊住久美夫様・伊藤登志子様 後藤たすく様・他匿名様よりお志や切手等を頂戴しました。

三重組コーラス♪

◇九月七日(金)十時十五分・陽光苑誕生会感謝(七回目次第に盛況。お年寄りから好評。このときだけの参加も可)

◇九月二十九日(土)午後七時半練習

2007 御堂演奏会の練習。参加葉書は9/20までに提出を。費用6000円

(交通費、昼食代含む)

◇十月二十日(土)夜七時半練習

最終土曜日(二十七日)は連研と重なるために第三土曜日に変更しました。一週間早まりました。「注意を!

※十一月三日午後川北 光了寺出演

※十一月十五日夜智積 西勝寺出演

※十一月二十二日(木)御堂演奏会(京都)五回目の参加一緒に歌いましょう!

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇九月八日(土)午後四時より

お経、ゲーム、紙芝居、お菓子、新しいお友達もどうぞ、誰でもOK

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第一六五号をお届けします。人口の過半数が三大都市圏に住み、地方の過疎化、人口減少が進んでいる。地方あつての都市であり、地方の衰退を放置するような国に未来はない。「佐賀のがばいばあちゃん」のような生き方の先輩方こそ地方の光、国の宝です。先輩を敬えぬ国に未来はない。合掌

終戦の日の夜、NHKテレビで「三通の絵手紙」が紹介されました。25歳で出征した山口県出身の小林喜三氏が書いたものでした。一歳の一人息子が喜ぶようにイラストいっぱい三通の葉書、29歳でニュギニアで戦死する二ヶ月前まで書き続けられました。息子の存之祐^{ゆき}は戦地を訪れ海に向って「お父さん」と大声で初めて呼んで男泣きに泣いたそうです。一緒に過ごした記憶はなげけれど三通の絵手紙が父親の愛情を60年経てもじつわりと届けてくれました。一方同じ日のニュースで、お盆に海外から帰国する家族連れの様子が放映されました。又以前のよまお盆の帰省ラッシュも減少されました。故郷に帰るお金と時間を自分達の楽しみに充てる核家族が増えた為でしょうか。正月もお盆も家に帰えらせず老人施設で過ごす人が増えて、戦争後平和な時代が続き、物が豊かになつたけれども皆がバブルの盛んなの絆が見失われてきました。後戻りはできないかも知れませんが、戦地からの「三通の絵手紙」のように、親として伝えなければならぬことは、勇気をもつて語り継ぎ、書き残しておきましょう。お仏事がそれに「役買うならば嬉しいことですよ。いつかきこつて、お心」を受け取ってくれる日が来ることを願ひながら、この「追弔会」があります。この一年間、七くなられた方や戦没者の方々からのメッセージを受け取る大切な機会です。お誘い合わせてお参り下さい。三重組コーラスは9月陽光苑慰問9/29(土)夜練習、2007御堂演奏会参加葉書はお早目に提出下さい。皆様の協力もろくお願ひします。合掌

平成十九年 九月

善正寺坊守 拝